

市では、市内の学校に通う児童・生徒に小諸のことをより知ってもらうため、副読本として「こもろヒストリー」を作製しました。ここでは、その一部を連載してお伝えしていきます。



HISTORY № 5

鉄道が通る

▶明治時代の小諸駅

明治21年（1888年）、長野から軽井沢まで鉄道がつながることになりました。

鉄道は、元小諸城の中をつき抜けて通ることになり、駅と荒町とを結ぶ道路として、水田が広がっていた所に、新しく相生町が作られました。

鉄道ができたことで、生糸を横浜までたやすく運べるようになりました。一方、商品などの流れが変わったために、小諸の中継基地としての役割は薄れていきました。

布引電気鉄道は、大正9年（1920年）に小諸駅から望月までを結ぶ目的で設立され、島川原（東御市）まで開業しました。しかし、お客さんが少なく、わずか8年後には休業して、そのまま廃止となりました。千曲川にかかっていた鉄橋を支える柱の一部は、今も残っています。

布引鉄道の線路を使って中央本線茅野駅と結ぶ計画もありました。

この頃、軽井沢と群馬県の草津をつなぐ草軽電気鉄道も作られるなど、各地で鉄道の建設が盛んに行われました。



▶布引電気鉄道を建設している様子

▼佐久鉄道を走った蒸気機関車

現在のJR小海線は、私鉄の佐久鉄道によって大正8年（1919年）に小諸から小海まで開通しました。



▶完成後、同じ場所で撮った写真。

超大作

全12回

私が住むまち

小諸の歴史

K O M O R O
H I S T O R Y
歴史の なかに、 未来の ひみつが 横た わっている

こもろ未来プロジェクトシリーズ

